

鶴見女子中学・高等学校教育の力点

鶴見女子中学校・高等学校校長 菅原 節生

大正十三年の本校の淵源から数えて、平成十三年の今年は七十六年目となる。初代校長中根環堂先生以来の二大誓願「大覚円成・報恩行持」を堅持しつつ、本校では特に仏教行持に力点を置いている。その目的は宗教的情操、特に仏祖への敬虔な心を育み、釈尊・両祖の言動に親しむことを通して、自己の生き方を問い続ける視点を培わせようとするものである。

本校の行持はすべて「私達の学園―鶴見女子中学校・高等学校行持規範―」に則って展開さ

れている。ここではその内の主なものに絞って紹介しておくこととする。

まず、毎日の行持。毎朝の朝礼は黙念（坐禅の要領）に始まり、黙念に終わるがその間、聖歌斉唱または読経し、（一、一二、三学期の順に、般若心経、観音経偈、修証義）、普回向、四弘誓願を唱える。昼食時には「五観の偈」を唱える。

次に毎月の行持。一日と十五日（またはそれに近い日）は校長の導師で祝祷朝礼（短い校長講話を含む）がある。また報恩活動として募金



や各種ボランティア活動がある。さらに各学年に対し学期に一、二回の校長講話を行う。

三つ目に年間の行持。

その式場は、学校と本山とに大別できる。前者には釈尊に関する行持として花祭り☆（四月）、成道会（十二月）、涅槃会（二月）。両祖に関する行持として両祖忌（九月）、太祖降誕会☆（十一月）、高祖降誕会（一月）。その他、精霊祭☆（七月）、達磨忌（十月）、初代校長忌（十一月）などがある。（☆印は献灯、散華の舞、献香・献華を含み、特別時間枠にて行い、他は朝礼時に実施。）後者には授戒会参拝（四月、新入生参列）、学校授戒会（五月、高三全員、三日間。事前に学校にて説戒三回）、御忌参拝（十月、全校生徒、学年単位で）、耐寒参禅会（一月、早朝坐禅四日間、有志だが参加率八

割）等がある。

さらに本校の入学式、卒業式及び精霊祭での法要はいずれも本山禅師様（学園主）の御親修で営まれ、御垂示のあることは特筆に値する。

これらの行持をまわりから支えているのが学習環境である。後者は発心館、精進館、慈眼館、光照館、浄光館等と名付けられ、オペラ上演可能の大講堂正面には身丈二、五尺の釈迦如来像が安置されているほか、校内では多くの御像を拝することができ、中でもモロカイ観音像は注目すべき存在である。この御像は、ハワイのモロカイ島にあったハンセン病の病棟に入院していた日本人の患者さんの御要望に応えて、若き三澤智雄先生のご努力や当時の校長中根環堂先生のアドバイスによる本校卒業生等の喜捨によって造られて海を渡り、多くの患者さんに光明を与え、無事、役目を終えて本校に里帰りした菩薩像である。拝む者に同事行の尊さを気づ

かせて下さっている。(詳しくは本校機関誌『鶴の林』十二年度十二月号、一月号参照)

こうして育まれゆく情操が日常に生かされるように、本校では色々な角度からのフォローがなされている。

近年では中・高・大一貫教育がより発展するよう試みられ、また、十二年度に発足した特進コースも成果を上げつつあり、さらに、社会の要請に応えた十三年度発足の看護医療進学コースは進路指導界から熱い眼差しを浴びている。また、本校高校二年生は一九八五年以来毎年、中国への修学旅行において浙江省杭州学軍中学(年齢は日本の中学・高校生)を訪問し、交流を続けてきた。去る一月には同校からの友好交流訪日団が初めて訪日して我が校を訪れ、ホームステイを含めて友好を深めたことは、国際交流を生活実感をもつてとらえることのできる良い機会となった。

